

年 組 名前：

風林火山

災厄に揺れた2020年度もあと1カ月。県立高ではきよう卒業式が行われ、高校3年生が学舎まなびやを後にする▼昨年は一部学校で保護者の敷地内への立ち入りが制限されるなど厳戒下での挙行となった。今年も感染収束は見通せず、対策に気を配りながらの巣立ちの時になる▼娘が通う小学校では卒業式を前に「6年生に贈る会」が催された。いつもなら「6年生を送る会」だが、今年は今全校児童が一堂に会することができない。在校生は感謝の気持ちをビデオに収め、卒業生は下級生へのメッセージを体育館から各クラスに中継で伝えた。対面で送り出すことはできなくとも、互いに思いを贈り合った▼この1年、子どもたちはいつもとは違う毎日を過ごしてきた。特に最終学年の児童生徒にとっては修学旅行の日程や行き先が二転三転し、運動会も短縮実施となった。思うようにならない学校生活を「不幸」と感じる子どもたちもいるだろう▼そんな子どもたちにも、小泉吉宏さんの言葉を贈りたい。<不幸な気持ちを味わいたくなければ 幸福を消せばいい 幸福を味わいたければ 不幸を消さなければいい 幸福と不幸は別々のものじゃない その事実を知ること それが覚悟>▼コロナ禍だからこそ気付けたこと、分かったことがこの1年あったはずだ。非日常の日々で経験したことは糧となり、いつか君たちがさらなる困難にぶつかったとき、道を拓ひらく力になる。(中)

(2021年3月1日付 山梨日日新聞1面)

問1

この小学校では、コロナ対策に気を配りながら、例年の「6年生を送る会」を今年は「6年生に贈る会」として開き、6年生は体育館で、下級生は各教室で参加しました。「送る会」を「贈る会」としたことには、児童たちのどんな思いが込められているのでしょうか。

.....

.....

問2

コロナの感染終息はなかなか見えてきませんが、コラムの筆者は「コロナ禍だからこそ気付けたこと、分かったことがあったはずだ」としています。あなたにとって「気付けたこと」「分かったこと」を考え、書いてください。

.....

.....

.....